

令和2年度

徳島県立城ノ内中等教育学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生徒の自主性や協調性を伸ばす授業の実践
- 個性や創造性を伸ばす授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員
高石裕介
(進路指導課長)

委員 湊雅邦(校長)、中野里佳(教頭)、井上貴文(教務課長)、三橋延世(第3学年主任・理科主任)、山田王代(第2学年主任・英語科主任)、篠原貴道(第1学年主任・数学科主任)、坂田雅也(社会科主任)、蟻井美美(国語科主任)

校長

湊 雅邦 印

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学習の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況	次年度における改善事項
○各教科等において、基礎的・基本的な知識・技能については習得率も高く、課題に真面目に取り組むことができる。 ●与えられた課題に真面目に取り組むことができているが、自主的に創意工夫を行った学習ができている生徒は多くはない。また、苦手教科において知識・技能の習得が十分であるとは言えない生徒もいる。	・知識・技能を確実に身につけ、既習の知識・技能と関連づけて活用することができる。 ・自主的に家庭学習に取り組み、学習時間が各学年の掲げる目標時間に達している。 目標時間 1年生:100分 2年生:120分 3年生:140分	・定期考査において、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題を誤答した生徒への学習支援を、考査後の補習や課題の提出等により行う。 ・学習実態調査を行い、生徒に自分自身の学習時間を振り返らせる。		・各教科において、定期考査後に必要な生徒に対して、補習や課題を与えるなどの学習支援を行った。 ・学習実態調査を年間4回行い、生徒に自分自身の学習習慣を振り返らせた。学習の目標時間を達成することができた。 1年生:163分 2年生:163分 3年生:176分	・基礎的・基本的な知識・技能を問う問題で躓いている生徒に対して、学習支援を行う。定期考査後の学習支援だけでなく、普段の授業での躓きをフォローし、意欲的に取り組めるような指導の形を検討する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況	次年度における改善事項
○話すことや書くことを通して、自分の感想や考えを表現することができる。より高度で豊かに表現できることをめざし、他者から学びながら意欲的に取り組むことができる。 ●設定された課題については取り組むことができるが、主体的に考え、判断しようとする生徒は多くはない。必要な情報を整理して、新たな考えで課題を解決しようとすることができない生徒がいる。	・学習活動において、その目的・目標を明確に理解し、それに照らし合わせて課題をつかみ、自分の考えをわかりやすく話したり書いたりすることができる。 ・他者の考えを取り入れ、課題を様々な視点で捉え、新しい課題を設定したり、新しい考え方を表現したりすることができる。	・すべての教科でペア学習やグループ学習の機会を取り入れ、言語活動を充実させるとともに、習得した知識・技能を実際に使用する場面を増やす。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用し、生徒の表現活動を充実させ、考えを深めさせる。		・感染症予防の対策を行う中で、ペア学習やグループ学習の機会は減少したが、各教科において適切な場面を設定し、実施することができた。 ・全クラスにホワイトボードが配備され、教育活動全体を通して積極的に活用することで、表現活動を充実させることができた。	・引き続き、すべての教科において、表現活動を積極的に取り入れていく。さまざまな場面でしっかり自分の考えを書くこと話することができる生徒を育成する。 ・一人一台の端末を有効に活用した主体的で対話的な深い学びが実践できるように、相互授業参観や研修を通して、授業改善を行っていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、一生懸命に取り組む、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。毎朝の読書活動では自分の興味・関心にじた本を選び、意欲的に取り組むことができる。 ●英語検定、数学検定、漢字検定に積極的に取り組む生徒は多いが、本校が推奨する全員3級合格は達成できていない。	・創意工夫しながら学ぶことを楽しむとともに、授業や様々な活動に一生懸命取り組む過程を大切に、自分の夢の実現に向けて努力することができる。 ・各種検定への挑戦など、自ら高い目標を定め、主体的に学習し課題に取り組むことができる。	・各教科の授業において、学習に主体的に取り組むことができるように、すべての教員が相互に授業参観を設定し、授業の改善を行う。 ・各教科担任により検定に取り組むことの意義を伝える。		・すべての教員が年間4回の相互授業参観や研究授業を実施し、学習に主体的に取り組む生徒の育成を目指して、授業改善に取り組んだ。 ・授業等を通して、検定を受検することの意義を伝えた。また、学校評価アンケートにおいて、「検定の受検が学習の励みとなる」と回答した割合は、生徒・保護者ともに昨年度より上昇した。	・引き続き授業参観を前期・後期で連携して行い、授業改善に取り組む。6年間を通して、学習に主体的に取り組むことのできる生徒の育成を目指す。 ・各種検定の取り組みについて共通理解を持ち、検定受検を通して生徒が主体的・意欲的に学習に取り組むことができるように、指導を行う。

※ 下記のマップは4月時点での計画であり、学校再開時期に応じて、適宜変更もあり得る。

令和2年度 学力向上ロードマップ

